

支部活動紹介

経営情報学会第18回学生研究論文発表会の開催報告

関西支部運営委員 仙波真二（せんば しんじ）
近畿大学経営学部

1. 概要

毎年恒例となりました学生論文発表会を関西支部の運営により2023年2月24日（金）に立命館大学大阪いばらきキャンパスで開催いたしました。この発表会は経営情報関連の研究を行っている学部、修士・博士前期課程、ならびに博士・博士後期課程を卒業または修了予定の学生に卒業論文、修士論文、博士論文での研究成果を発表する機会を与え、質疑応答を通じてよりよい研究へと発展させるための一助とし、さらに、経営情報関連分野の研究・教育の進展に資することを目的に、2005年度より年度末に開催しております。昨年度と一昨年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、オンライン開催でしたが、本年度はハイブリッド（対面+オンライン）での開催となりました。

2. 発表会について

今回は卒業論文9件、修士論文5件の推薦を受け、計14件の報告が行われました。それぞれの発表者とタイトルは次のとおりです。

発表者の氏名とタイトル

卒業論文の部（9件）

田淵アルマン（日本大学経済学部） 株価データを対象としたリンク予測モデルを用いたVAR時系列変数の抽出
任 金龍（東京都市大学環境学部） フードデリバリー業界における業界内ビジネスメカニズムのシステムダイナミクスを用いた考察
曾我悠加（静岡大学情報学部） 純粋種豚における生産性向上の要因分析と農場間比較
山田 遼（近畿大学経営学部） 「写真」によるユーザー定性調査手法の提案 —持ち物によるユーザー理解—

久留島弘章（東京理科大学経営学部） 実践共同体間の社会的正当性獲得のメカニズム —江戸の蘭学塾の師弟ネットワークによる実証研究—
木下 翼（東京都市大学環境学部） 食品ロス削減に向けたフードバンクビジネスモデルのビジネスシミュレーションに基づく提案
キーガン長谷川啓斗（近畿大学経営学部） 「エモい」と感じさせる要素に関する研究
吉本 晶（東京理科大学経営学部） ODAによる開発途上国のイノベーション・エコシステムの創造 新興企業誕生と新たな知識創出のメカニズム
仲本水優（大阪府立大学現代システム科学域） ジャーニーズファンの心理と同担拒否の特徴

修士論文の部（5件）

立石 凌（東京工科大学大学院バイオ・情報メディア研究科） 自己主権型IDとポリシーエージェントによるWeb3.0サービス基盤
高橋宏都（福島大学大学院共生システム理工学研究科） デザイン経営の導入に向けた組織に関する研究
石田 爽（大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科） 日本の音楽産業におけるアーティストプロモーション戦略の一考察
大石将平（東京理科大学大学院経営学研究科） ビジネスモデルイノベーションを生み出す博物館経営の特性に関する実証研究
高野祐希（東京都市大学大学院環境情報学研究科） ビジネスモデル変革プログラムの企画立案の基礎となるシミュレーション可能なAs-Isビジネスモデルの構築手法の提案

1人あたりの報告時間を卒業論文は発表10分・質疑5分、修士論文は発表15分・質疑10分と定め、研究内容についてのプレゼンテーションと活発な質疑応答が行われました(写真1)。



写真1 発表会場の様子

また、各発表者からは事前にそれぞれの論文での研究内容をまとめた予稿を4ページで作成していただき、それらをまとめた発表論文要旨集の発行も行いました。

3. 表彰式について

すべての発表が終了後、関西支部の運営委員のメンバーで構成する審査委員会によって、各発表者の予稿、発表および質疑の内容を審査し、最優秀賞、優秀賞および奨励賞を決定しました。各賞の受賞者は次のとおりです。

■最優秀賞

大石将平さん(東京理科大学大学院経営学研究科)



写真2 最優秀賞受賞者の大石将平さんと大江先生

■優秀賞

曾我悠加さん(静岡大学情報学部)



写真3 優秀賞受賞者の曾我悠加さん
(Zoom参加, 写真は別の発表風景)

■奨励賞

山田 遼さん(近畿大学経営学部)



写真4 奨励賞受賞者の山田遼さん

久留島弘章さん(東京理科大学経営学部)



写真5 奨励賞受賞者の久留島弘章さん

また、他の発表をいただいたすべての学生に対し論文賞が授与されました。

4. おわりに

最後に布施匡章関西支部長よりすべての発表者および参加者への謝意が表された後、本日の発表全体に関して次のように講評が述べられました。

- ・経営情報学会は学際的な研究組織であるが、本日の発表会も同学会らしい多様な領域や分野の研究成果が報告され喜ばしい。

- ・研究の楽しさを後輩に伝えてほしい。また、社会人になってからも研究の成果を経営情報学会全国大会で発表してほしい。

最後に対面参加者による記念撮影を行い、全プログラムを終了しました(写真6)。冒頭の「1. 概要」でも述べたとおり、本年度はハイブリッド(対面+オンライン)での開催となり、大変広範囲の地域から多数の発表および参加をいただきました。約5時間と長時間の発表会となりましたが、最後まで参加いただきました皆さま、ありがとうございました。



写真6 対面参加者による記念撮影

本発表会は経営情報学会の研究活動の一環として実施しており、次年度も引き続き学生研究論文発表会を開催予定です。次年度も全国より多数の発表および参加のお申し込みがあることを期待しております。